

コース 24 かしまやりがたけ 鹿島槍ヶ岳

リーダー CL T/Y

実施日 平成28年7月20日(水) 21日(木) 天候 20日21日 晴れ

参加者 9人 (男性 2名 女性 7名) グレード C上~D

コースポイント

ポイント	到着時間	出発時間	備考
20日 柏原新道 冷池山荘			
秋葉区役所前	5:10	5:16	高速新津S高速道路
道の駅白馬	8:30	8:50	身支度を整える
柏原新道登山口	9:20	9:35	柔軟体操後出発
ケルン	10:55	11:00	扇沢駅(黒四ダム入口)見える
種池山荘	14:20	14:30	冷池山荘へ到着時間連絡を頼む
爺が岳下	15:30	14:35	山頂付近のう回路通過
冷池山荘	17:15		予定16:30 一部屋(10名)男性上段
夕食	18:00	18:40	500ビール750円乾杯
ミーティング	19:30	20:30	下山コースの変更等について
30日 鹿島槍ヶ岳 下山赤岩尾根			
冷池山荘		4:07	朝飯は弁当
布引山	5:38	5:45	快晴 大パノラマ展望台
鹿島槍ヶ岳	6:55	7:25	360°の素晴らしい眺望中で朝食
冷池山荘	9:30	9:40	休憩
赤岩尾根分岐	10:00	10:05	もろいやせ尾根ストック収納、クサリ場連続
高千穂平	11:25	11:30	鹿島槍ヶ岳の岸壁が見える
西俣出会	13:50	14:00	砂防ダムの下、トンネルあり
大谷原	14:50	15:15	ジャンボタクシーに乗り込む。
道の駅小谷	15:55	17:00	日帰り温泉で汗を流す
秋葉区役所前	19:30	19:40	急降下の赤岩尾根無事終了

山行等概要(幹事のコメント)

・新潟は大雨で天気男も終演か?、長野県に入ると一転の快晴一足早い梅雨明けの兆し、今回も太陽は見放さないで心で祈る。

・整備された道の駅白馬で登山靴に履き替え、準備万端再びジャンボタクシーに乗り込み柏原登山口に向かう、二日目も天気予報は快晴、山小屋の朝食は5時からしかし到着する番から食べる、遅い我がパーティーは二番手6時なる予想、この時間では計画が狂うので朝飯は弁当にすると告げる、(異議なし)

山道に入ると携帯電話は圏外と



鹿島槍ヶ岳山頂 2,889m

なるので、小屋に連絡、到着時間は途中の種池山荘から連絡してくれ途ここと、気の利いた対応に流石、登山道を開いた山小屋でした。

・石畳み、水平道などよく整備された歩きやすい登山道、修学旅行使う山に納得しました、今年は暖冬でアザミ沢にも雪渓なし、種池山荘からは森林限界を越え日本アルプスの眺望を楽しみながら歩行、時間の関係で爺が岳は割愛しなだらな巻道で冷池山荘に到着しました。



冷池山荘にて

・畳一枚一人の余裕一部屋の貸し切りでしたが、飲食は残念ながら禁止、夕食の後ミーティングは下山コースを赤岩尾根に変更について、四時間連続の急降下で登りはない、ただレクサリ場、梯子の難コース天気が良い日でなければ選択できない、山の醍醐味を味わう事に意見がまとまりました。

・日干しの匂う寝具に早めに身を投じ、4時47分ご来光が拝める、4時小屋をヘットランプ付けて出発布引山下で日の出前の美しい朝焼けに足を止めましたが、ご来光は拝めませんでした。

・布引山山頂に立つところはすっかり明るくなり、墨絵の幻想的な景色から目覚めさせられる思いでした、花と展望のジグザグの

急登をゆっくりたどり、鹿島槍ヶ岳山頂到着しました、山頂は広々とした台地、小屋から朝飯弁当を日本アルプスのパノラマを見ながらいただきました。

・北峰は行かず往路を下山、気温の上昇で下方から雲が沸き、刻々と変化する景色は新たな感動でした、冷池山荘に戻り用を足し、赤岩尾根の情報を小屋で確認問題なし、柏原新道から別れ赤岩尾根に下るもろいやせ尾根、ストック収納レクサリ場を「下を見ないで」声をかけ無事通過、高千穂平まで身のしきしまる思いでした、急坂の連続は林道の西俣出会までつづきました。

・出会の大冷沢を渡る場所確認のため、パーティーを置き去りにし先に出ました、川床の下に鋼鉄のトンネル珍しい登山口に安堵しました、大谷原でジャンボタクシーに乗り、道の駅小谷で汗を流し帰路につきました、赤岩尾根の下山は緊張の連続、柏原新道は整備された眺望のコース、稜線登山道の醍醐味を体験しました、無事下山しましたメンバーに感謝いたします。

「頑張った鹿島槍ヶ岳」

(1670) M/T

秋葉区役所前9名を乗せたジャンボタクシーで出発、途中糸魚川付近で雨が降り出し心配されたが、長野県側は天気予報通り快晴の好天です、登山口で準備体操を済ませ予定より30分ほど早く、今晚宿泊する初代冷池山荘の主人が開拓した柏原新道を登山開始、時折木立の間から黒四ダムトロリーバス扇沢駅を左後方に見下しながら、石畳、水平道、大廻りなど箇所々に名前つけられた登山道を登る。

登山口で会った三重から七時間かけて来たという、同年配男性は種池山荘に泊まるそうだ、我々は通過点その山荘は思ったより遠かった、山荘の周辺は素晴らしい花園、高山植物の花盛り群生のチングルマは綿毛に変化、山荘前のベンチに冷池山荘に乾燥機を設置してきたという若者「この先キツイ登りあるけど頑張ってください」とさわやかに見送られ歩を進めた。



赤岩尾根の下り

つらい登りを 120 名ほどの中学生下ってきた、口々に励ましの元気をつけられ登りきれました。

爺が岳山頂は割愛し宿へ巻道を進む、コマクサを発見、母雷鳥の回りを無邪気に走り回る三羽のヒナ達、目を細めながらしばし眺めていました、片側が切れ落ちた場所ではグロッケン現象が見られ、虹色に輝くリングの中に己を映してみる、「観音菩薩」のように見え、神様を感じました、

疲れもマックスに近いころガスの切れ間に冷池山荘の赤い屋根が見え安堵いたしました。

二日目はご来光（日の出 4 時 47 分）拝むため朝食をちらし弁当に変えてもらい、薄暗い 4 時に山荘を出発、テント場すぎると空は明るさを増し遠方にぼんやり浅間山の噴煙が確認出来ました。

日の出 5 分前、空は鮮やかなオレンジ色に染まり始め早起きのご褒美に感激しました、稜線登山道の両側には高山植物の花々が咲きほころび、花道は布引山から鹿島槍ヶ岳へと続いておりました、左手には剣岳、立山連峰が月を配し細引きベールを中腹に装い、妖艶な絶景を見せてくれた、

振り向けば、北アルプスの主峰槍ヶ岳、穂高連峰、常念岳などが望めた、山頂の 360° 眺望は満足度 100 パーセントで下山開始、気温の上昇に伴い刻々変化する、谷底から湧き出る雲模様これも早起きのご褒美のようです、途中で昨日の三重からの男性に会う、素晴らしい絶景を自慢しつつ彼にもその景色が見られますようにと願った。

冷乗越から小谷原に向かう、赤岩尾根を下る赤っぽいザレ場の急斜面ストックを収納して、クサリ場を間隔を開けて一人ずつ慎重に通過した、急降下の連続の辛い四時間、沢の水音に終わりを感じ達成出来た満足です、砂防ダム内にトンネルが作られて沢を渡れました、そこから林道歩きの一時間が控えました。

夜明け前の穂高、立山連峰、手に取る様に見えた名峰剣岳、映像でしか見たことのなかった風景をライブで見られた感動は共に労り、励まし合っ
て登頂できた達成感でいっぱい、思い出に残る山旅の一つになりました、「バンザ〜イ」「アリガトウ」
(おわり)



布引山



鹿島槍ヶ岳登山道



鹿島槍ヶ岳山頂から立山連峰



布引山から鹿島槍ヶ岳



朝焼け



小さく種池山荘が見える



北アルプス山々



左側の稜線登山道一日目





花の道



赤岩尾根の下り